

## 銘茶！富谷茶復活へ！



かつて富谷宿の名産品として知られていた「富谷茶」。このお茶を復活させ、まちおこしの軸にして、スイーツの開発などにも繋げていこうとする動きが富谷市で始まっている。

同市は江戸時代、奥州街道の宿場町として発展し、茶の生産が盛んになった。「奥道中歌」には「国分の町よりここへ 七北田よ 富谷茶飲んで 味は吉岡」と詠われ、仙台藩主にも献上されていた。大正時代には30軒程の農家が茶を栽培していたが昭和45年、旅館「氣仙屋」が栽培をやめたことで、富谷茶の生産は途絶えていたが、昨年、2020年に富谷宿が開宿400年を迎えるのを機に「公益社団法人富谷市シルバ

ー人材センター」が富谷茶復活プロジェクトを立ち上げた。

今年2月には、同市と日本紙通商株式会社が富谷茶復活プロジェクト再生技術協定を締結。容器内挿し木技術を用いて、江戸時代から続くとみられる「氣仙屋」の原木から苗木2,000本の再生に向けた取り組みを行っている。現在市では「富谷茶」の栽培農家を募集しており、この茶苗の提供、茶畑の管理生産や技術協力をすることにより、富谷茶の復活を目指している。